



感謝のことば

この度、地域文化功労者文部科学大臣表彰という、なんとも厳めしい長い名前の表彰をいただきました。ちょっと照れ臭い感じもしていますが、私が鳥取で作曲して発表してきた作品の数々を、何処かで誰かが評価してくださったのだと思うと、とてもありがとうございます。その意味で今回の受賞は、鳥取での私の作品の演奏をしていただいたみなさんのおかげであります。この場をお借りしてお礼を述べたいと思います。今後とも命の続く限りは、作曲と発表を地道に続けるつもりです。どうぞよろしくお願いします。

新倉 健



合唱団優喜 Mixed-Chorus "Yuuki"



2017年1月に結成した混声合唱団。“優しく”“喜びあふれる”音楽を目指して、鳥取県内を中心に活動している。2022年全日本合唱コンクール鳥取県大会では、室内合唱の部において金賞および県内総合1位の団体に与えられる全日本合唱連盟理事長賞を受賞し、中国大会に出場。中国大会では、同部門で銀賞を受賞した。鳥取県合唱連盟加盟団体。



入場料: 一般 3,000円(当日3,500円)
高校生以下 2,000円(当日2,300円)
※未就学児のご入場はご遠慮ください

プレイガイド:とりぎん文化会館 倉吉未来中心

アルテプラザ ほか

「WEBチケとっとり」もご利用できます

※右のQRコードから購入できます



お客様へのお願い



●ホール内は十分な換気と適時、消毒を行います。



●出入口で、手指の消毒を行ってください。



●ご来場の際にはマスクの着用をお願いします。



●チケットに体調などのご記入をお願いします。

連絡先: メール polanpolan@docomo.ne.jp

電話 09031756593(新倉)

鳥取で新倉健の作品を演奏してくださったみなさん

※個人での演奏は省略させていただきました。()内は開催年。

鳥取大学フィルハーモニー管弦楽団:

星めぐりのためのエスキース第5番(1988)

池沢正子ダンス・アカデミー:

バレエ「流し離幻想」(1991)/バレエ「忍冬(すいかずら)」(1994)

鳥取市交響楽団:

「アジール～弥生鳥人幻想～」(2005)

混声四部合唱とオーケストラのための「ふるさと」ほか

米子市管弦楽団:

「FURUSATO on Bolero」/オペラ「春香(抜粋)」

「全国植樹祭の音楽」(2013)ほか

音の絵本制作委員会:

「音の絵本」モチモチの木/よだかの星/どんぐりと山猫

スホの白い馬/雪渡り/注文の多い料理店

セロ弾きのゴーシュ ほか

鳥取女声合唱団:

「プレヴェールの詩による三つのシャンソン」(1993)

「村にて」(1994)

青谷町の民話による合唱オペレッタ「すいとんさん」(2002)

合唱オペレッタ「ゆめくい小人」(2004)

ミュージカル・コメディー「佐治谷ばなし」(2007)

鳥取男声合唱団:

組曲「男の唄」(2005)

鳥取市民合唱団:

組曲「酒神礼讃～酒の詩・古今東西～」(2014)

米子市少年少女合唱団リトル・フェニックス:

組曲「おじやれ 子どもたち」(2010)

組曲「歌ってすごい」(2018)

鳥取市少年少女合唱団:

組曲「こどもの肖像」(2005)

オペラ研究会「河童」:

クリスマス・ミュージカル「子うさぎましろのおはなし」(1996)

鳥取オペラ協会/ミンクス室内オーケストラ:

オペラ「ポラーノの広場」(2002)

オペラ「窓-Windows-」(2011)

鳥の劇場:

架空のオペラのためのエスキース「魔法のカクテル」(2015)

音楽劇「セロ弾きのゴーシュ」(2014)

アンサブル・ボラーノ:

ソングカグ(1991)

テレマン・トリオ・ベルリン:

トッカータ「雲の信号」(2001)

カウベルピアノコンクール実行委員会:

「セント・ギガ」(1991)

山陰ギターコンクール実行委員会:

「橋-eion Brücke」(2005)

アンサンブル・ココペリ:

「Kokopelli」(2012)

「神話～三つの世界の終わりとツキワカ～」(2013)

鳥のオーケストラ:

「ソングカグ2020」

新倉健「音の個展IV」

地域文化功労者文部科学大臣表彰記念公演

オペラ 窓 -Windows-

作曲:新倉 健

台本・演出:中村敬一

指揮:大浦智弘

窓の向こうに映るいつもの景色

どちらが実像で影なのか

ミステリアスな空間へと誘う三部作



2023

5/21 日

倉吉未来中心小ホール
開演/1回目 13:30 / 2回目 16:00

主催:「音の個展IV」オペラ「窓-Windows-」実行委員会

特別共催: (公財)鳥取県文化振興財団

後援:鳥取県/鳥取県教育委員会/鳥取大学/鳥取大学地域学部附属芸術文化センター

Opera～☆/鳥取オペラ協会/EN+ER企画/鳥取県合唱連盟/鳥取女声合唱団/

鳥取男声合唱団/鳥取市民合唱団/日本海テレビ/TSKさんいん中央テレビ/

BSS山陰放送/日本海ケーブルネットワーク/新日本海新聞社/朝日新聞鳥取総局

ごあいさつ

この度、鳥取を代表する作曲家のひとりであり、鳥取の音楽の発展に長年ご尽力されてきました新倉健先生が、地域文化功労者文部科学大臣表彰を受けられました。これを記念して、第4回となる「新倉健 音の個展」を開催する運びとなりました。

今回は、先生の代表作のひとつであり、各地で上演されて高い評価を得ているオペラ「窓-Windows-」を鳥取で活躍するメンバーを中心とした演奏者たちで上演します。鳥取生まれのオペラを鳥取の演奏者たちが鳥取の地で上演する一鳥取の優れた芸術に触れられるこの機会をぜひお楽しみに。

音の個展IV 実行委員会委員長 山根頼博

メッセージ

大学時代の先輩である西岡千秋氏が鳥取大学に赴任して「オペラをやりたい手伝いに来い」という1本の電話を掛けてきた。必要な小道具を積んでポンコツの乗用車で冬の鳥取に向かった。一晩で114cmの積雪があった昭和59年豪雪の時だった。宿泊したのが茅ヶ崎から先輩より先に赴任していた作曲の新倉健氏のお宅。全てはそこからはじまった。それから、色々なオペラ活動のお手伝いを経て、2002年には国民文化祭鳥取を契機に「ポーラーの広場」の創出となった。

実はこの「窓-Windows-」の台本を書いたのは「ポーラーの広場」からさらに遡って1994年。「ウンドウズ95」に世の中が湧き、人々がパーソナルコンピューターを求めて量販店に走った頃だ。書きたかったのは現代の我々の等身大の題材。神話でも大文豪の名作でも無い。しかし、新倉氏の作曲が進み、作品の誕生までには、台本から再び17年の月日が経った。なんと時間の経つのは早いことだろう。この歳月の間に私の髪にも白いものが増えた。しかし過ごした日常の積み重ねが、この作品にも活きていてくれれば嬉しいばかりだ。

「ポーラーの広場」が青春の記念碑ならば、「窓」～ウンドウズは人生の時間を積んだ答えだった。

「窓」～ウンドウズ。都会と故郷。孤独と共に存。我々をとりまく、相反する現代の問題をオペラに結晶させた。電話、パソコン、鏡～窓で隔てられたふたつの世界を繋ぐアイテムが、人と人を繋ぎ、結び、交わらせる。それらはちょっと奇妙な味わいの世界に我々を誘ってくれることだろう。オペラだといって身構えて劇場に足を運ぶ必要はない。ちょっと、近所に出掛けるつもりで、刻まれた時間の結晶を楽しんで頂きたい。

演出家:中村敬一

プロローグ

「一つ目の窓」

部屋で孤独にパソコンに向き合う女。インターネットの中だけが自分の世界。今日もいつものようにパソコンに向かっているが、なかなかアクセスできない。やっとのことでインターネットにつなぎ、まずはネットショッピング。掘り出し物を探していると、モニターの中から徐々に不思議な人たちや動物が飛び出してきて、現実とネットの世界が交錯してしまい…。

Cast:



女:小椋美香子



女:田内 愛



PASO:松田千絵



COM:山田康之



サル:長谷川愛



フラミンゴ:足森愛梨



孔雀:竹内美咲

間奏曲 I

「二つ目の窓」

都会のマンションで1人暮らす女。しんしんと雪の降るクリスマスイブ。窓の外に3年前に亡くなってしまったはずの母が現れる。母は、娘に伝えたかった思いを静かに話し始める。



キツツキ:北村保史



象:西岡千秋



女:尾前加寿子



女:寺内智子



母:鶴崎千晴

間奏曲 II

「三つ目の窓」

1人暮らしの男。鏡に自分の姿を映して、「ドッペルゲンガー」だとふざけている。鏡の中の自分はいつのまにか女になっていて、徐々に心惹かれていくのだが…。



男:吉田章一



男:武田直之



女:佐々木まゆみ



女:小田切一恵

エピローグ

Chorus: 合唱団優喜

Sop.	Alt.	Ten.	Bass
岩田侑香里	岩井祥子	坂井涉悟	齋藤 基
加賀田ゆかり	吉川綾乃	室永宏道	山代 豊
井戸垣さつき	竹内美咲	松本厚志	原田知巳
尾前加寿子	山本綾乃	小林 誠	人見晴悟
中井暁子	岩木優花	岡本悠太郎	小山雅彦
			魚住保幸

Orchestra: 室内オーケストラ「窓」

指揮 大浦智弘	cb. 神庭智子	tp. 守岡未央
1st.vn. 湯淺いづみ	fl. 東田夏織	tb. 田中洋実
2nd.vn. 桑本ゆうき	ob. 安田美和子	hr. 穂山純果
va. 棚橋恭子	cl. 杉山清香	pf. 伊藤亜紀
vc. 中嶋寄惠	fg. 木村恵理	打楽器 深堀賢太郎

演出家:中村敬一

武蔵野音楽大学同大学院で声楽を専攻、のち舞台監督集団「ザ・スタッフ」に所属してオペラスタッフとして活躍。以後、鈴木敬介、栗山昌良、三谷礼二、西澤敬一各氏のもと演出の研鑽を積む。1989年より、文化庁派遣在外研修員として、ウィーン国立歌劇場にて、オペラ演出を研修。帰国後、リメイク版《フィガロの結婚》で、高い評価を得、二期会公演《三部作》、東京室内歌劇場公演《ヒロシマのオルフェ》、日生劇場公演《笠地蔵・北風と太陽》で、演出力が絶賛され、1995年、第23回ジロー賞新人賞を受賞。2000年3月には新国立劇場デビューとなった《沈黙》が高く評価され、2001年ザ・カレッジ・オペラハウス公演《ヒロシマのオルフェ》では、大阪舞台芸術奨励賞を受賞。オペラの台本も手がけ、松本和彦作曲《笠地蔵》、《走れメロス》、新倉健作曲《ポーラーの広場》、《窓-Windows-》などがある。国立音楽大学招聘教授、洗足学園音楽大学客員教授、大阪教育大学講師、沖縄県立芸術大学講師。



作曲家:新倉 健

1951年神奈川県茅ヶ崎市生まれ。1976年武蔵野音楽大学大学院作曲専攻修了。作曲を福島雄次郎、金光威和雄、指揮法を長谷川朝雄、久保田洋の各氏に師事。主な作品にオペラ《ポーラーの広場》、オペラ《窓-Windows-》、《madrigal》、《ゴング・エカサマ・ブダヤ》、《ケンタウル祭の夜》、《星めぐりのためのエスキースI～VI》、朗読と室内楽のための音の絵本《よだかの星》、《注文の多い料理店》、《セロ弾きのゴーシュ》などがある。また、NYタイムス紙で好評され米国各地で演奏された《広島が言わせる言葉》、ドイツで出版された《ギターネンジャリ》、オランダで放送された《歌の祭り》など、その作品は海外でも高い評価を得ている。日本作曲家協議会会員、鳥取オペラ協会会員。作曲グループ「樹」同人、作曲工房「パパゲーノ」同人。鳥取大学名誉教授。



Staff: 作曲:	新倉 健
台本・演出:	中村敬一
指揮:	大浦智弘
照明:	樋木 実
映像:	荒井雄貴
舞台監督:	山中 舞
広報デザイン:	小松ア希恵